

平成17年度資源評価票(ダイジェスト版)

東シナ海底魚類

キグチ		<i>Larimichthys polyactis</i>
シログチ		<i>Pennahia argentata</i>
ハモ		<i>Muraenesox cinereus</i>
マナガツオ類	マナガツオ	<i>Pampus punctatissimus</i>
	コウライマナガツオ	<i>Pampus echinogaster</i>
エソ類	ワニエソ	<i>Saurida wanieso</i>
	トカゲエソ	<i>Saurida elongata</i>
	マエソ	<i>Saurida</i> sp.2 等
	クロエソ	<i>Saurida</i> sp.1
カレイ類	ムシガレイ	<i>Eopsetta grigorjewi</i>
	メイトガレイ	<i>Pleuronichthys cornutus</i>
	ナガレメイトガレイ	<i>Pleuronichthys</i> sp.



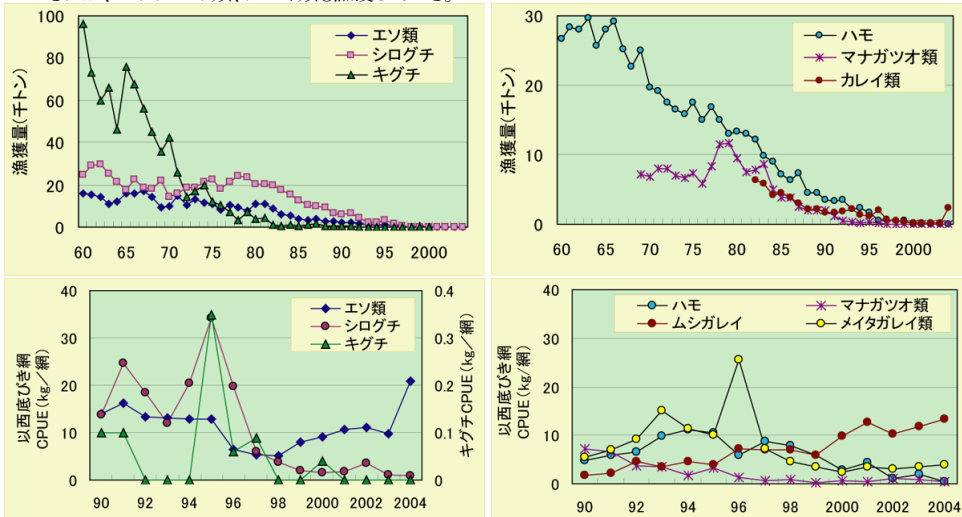
系群名 東シナ海
担当水研 西海区水産研究所

漁業の特徴

主に以西底びき網漁業によって漁獲される。かつての漁場は東シナ海・黄海の広域に及んでいたが、現在では我が国200海里内を中心としている。さらに2004年は夏期休漁の影響で、漁場が東シナ海北部海域に集中した。主要対象種も大きく変化し、現在ではキグチ、イボダイ類、イカ類等が大きな割合を占め、グチ類やハモ、エソ類の占める割合は小さくなっている。

漁獲の動向

以西底びき網による漁獲量は、1960年代は30万トン以上を維持していたが、1970年前後に急減し、1970年前半にはおよそ20万トンとなった。1970年代は20万トン水準で安定していたが、1980～1990年代に漸減し、2004年には7,200トンに漁獲するのみとなっている。中国はキグチ、マナガツオとハモを多獲しており、1990年代に漁獲量が著しく増加した。2003年のグチ類の漁獲量は約84万トンであった。韓国も近年ではキグチとシログチを1万トン以上漁獲しているほか、マナガツオ類、カレイ類も漁獲している。

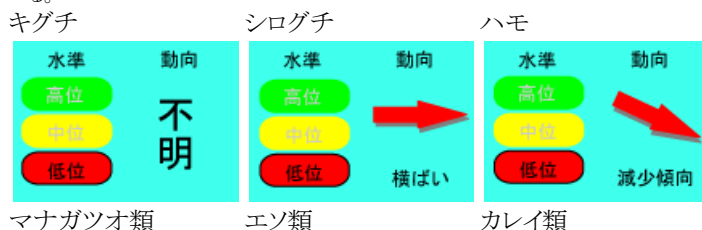


資源評価法

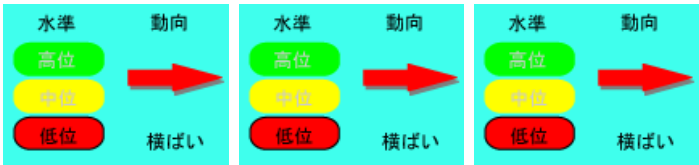
東シナ海の陸棚縁辺部で着底トロール網を使った漁獲試験を行って現存量を調査するとともに、以西底びき網漁業の漁獲統計を解析し、2003年の操業漁区と同一漁区におけるCPUE (kg/網) から資源の変動傾向を検討した。但し2004年のCPUEについては、以西底びき網の漁場が著しく北偏していたため参考値に留めた。

資源状態

すべての資源は低い水準で、ハモは減少、その他は横ばい傾向にある(キグチは不明)。近年のCPUEの変動傾向は、我が国200海里内における資源量の変動傾向をある程度表していると考えられる。本報告で対象とする資源の大部分は、産卵場を含む主分布域が我が国200海里外に存在する種である。我が国の漁獲努力は著しく減少している一方、中国と韓国はこれら資源を大量に漁獲しており、近年の資源減少は外国の漁獲による影響が大きいと推察される。



マナガツオ類 エソ類 カレイ類



管理方策

本報告で対象とする東シナ海底魚類を漁獲している以西底びき網漁業の現状の漁獲努力が、資源に与える影響はあまり大きくはないと考えられるので、資源の増減傾向に合わせて漁獲することを資源管理目標とするのが妥当である。現状の漁獲努力の水準で漁獲を続けることで、多くの魚種について目標達成が可能であると考えられる。対象資源を管理するためには、関係各国の協力による東シナ海全体における資源管理が必要である。

資源評価のまとめ

- すべての資源が低位水準で、資源状態は良くない
- 東シナ海全体における漁獲圧は過剰である

管理方策のまとめ

- 問題の根本的解決には、東シナ海全域での関係国間の協力が不可欠
- 我が国の漁業の現状の努力量が、対象資源に与える影響はあまり大きくないと考えられる
- 我が国の漁業については、現状の漁獲努力で漁獲を継続する

資源評価は毎年更新されます。